

2026年6月21日(日)**ランチョンセミナー**

12:10 ~ 13:00 | 第1会場（ウイंकあいち 2F 大ホール）

ランチョンセミナー5 歯科医療の進化を支える3Dプリンター –実践的アプローチ–

[LS5] 歯科医療の進化を支える3Dプリンター –実践的アプローチ–

*吉田 茂治¹ (1. パークサイドデンタルオフィス)**ランチョンセミナー**

12:10 ~ 13:00 | 第2会場（ウイंकあいち 6F 展示場604+605）

ランチョンセミナー6 モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

座長：田中 豊（株式会社モリタ）

[LS6] モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

*北道 敏行¹ (1. きたみち歯科医院)**ランチョンセミナー**

12:10 ~ 13:00 | 第3会場（ウイंकあいち 5F 小ホール1）

ランチョンセミナー7 補綴の力で診る口腔機能低下症 –口腔機能検査の補綴治療への活かし方–

[LS7] 補綴の力で診る口腔機能低下症 –口腔機能検査の補綴治療への活かし方–

*上田 貴之¹ (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)**ランチョンセミナー**

12:10 ~ 13:00 | 第4会場（ウイंकあいち 5F 小ホール2）

ランチョンセミナー8 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

座長：澤瀬 隆（長崎大）

[LS8] 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

*黒嶋 伸一郎¹ (1. 北海道大学大学院歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯・インプラント再生補綴学教室)

ランチョンセミナー

■ 2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | Ⅲ 第1会場 (ウインクあいち 2F 大ホール)

ランチョンセミナー5 歯科医療の進化を支える3Dプリンター —実践的アプローチ—

協賛：株式会社ヨシダ

[LS5] 歯科医療の進化を支える3Dプリンター —実践的アプローチ—

*吉田 茂治¹ (1. パークサイドデンタルオフィス)

ランチョンセミナー

2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | 第1会場 (ウイंकあいち 2F 大ホール)

ランチョンセミナー5 歯科医療の進化を支える3Dプリンター –実践的アプローチ–

協賛：株式会社ヨシダ

[LS5] 歯科医療の進化を支える3Dプリンター –実践的アプローチ–

*吉田 茂治¹ (1. パークサイドデンタルオフィス)

キーワード：デジタルワークフロー、3Dプリント臨床応用、MIDASとSprintRay Pro 2の比較

歯科臨床ではデジタルワークフローの発展により、口腔内スキャナー（IOS）を起点とした補綴装置の製作が、診査・診断から設計・製作までを連続的に統合する手法として重要性を高めている。従来はミリングマシンによる切削加工が中心であったが、近年は付加製造である3Dプリントが注目されている。3Dプリントは、スキャンから設計、造形、洗浄、二次重合、仕上げまでを院内で完結でき、形態再現性や設計自由度、同時造形性に優れる。一方で、材料強度や新規材料導入の遅れなど課題は残るものの、歯科技工士不足が進む中、業務効率化に大きく寄与する技術と言える。また、従来の切削や手作業では困難であった装置製作にも対応可能である。

しかし臨床応用には、正確なデータ取得、目的に応じた設計、機器および材料特性の理解が不可欠である。本講演では、IOS導入の意義を踏まえ、3Dプリントの基本フローを整理し解説する。さらに、歯科技工室設置型CAD/CAMユニットであるMIDASの特長を、SprintRay Pro 2との比較を交えて紹介し、補綴製作における有用性、設計設定が造形精度や臨床成績に与える影響について考察する。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | Ⅱ 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

ランチョンセミナー6 モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

座長：田中 豊（株式会社モリタ）

協賛：株式会社モリタ

[LS6] モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

*北道 敏行¹ (1. きたみち歯科医院)

ランチョンセミナー

2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

ランチョンセミナー6 モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

座長：田中 豊（株式会社モリタ）

協賛：株式会社モリタ

[LS6] モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

*北道 敏行¹ (1. きたみち歯科医院)

キーワード：IOS、CAD/CAM、デジタル連携

モリタが歯科診療にCAD/CAMを導入してから約35年。当時はアナログ技術の限界をエビデンスと経験で補完する時代であったが、PCの普及とともに歯科医療は急速にデジタルへと転換した。当院でも2008年に歯科用CAD/CAMを導入し、3年後にはデジタル歯科に特化した診療体制を新たに構築した。また同時期CBCTを活用した高精度かつ安全なインプラント治療をも実践してきた。こうした流れの中、歯科DXを次のステージへと押し上げる純国産IOS「Accuios」が登場した。本システムは診療プロセス全体を貫くデータ統合を実現し、業務効率と診療品質を飛躍的に向上させる。さらにDOOR Link Labとの連携により、院内外をシームレスかつセキュアに接続する。本発表では、Accuiosが切り拓く新たな歯科医療の実像を提示する。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | Ⅲ 第3会場 (ウインクあいち 5F 小ホール1)

ランチョンセミナー7 補綴の力で診る口腔機能低下症 ―口腔機能検査の補綴治療への活かし方―

協賛：株式会社ジーシー

[LS7] 補綴の力で診る口腔機能低下症 ―口腔機能検査の補綴治療への活かし方―

*上田 貴之¹ (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)

ランチョンセミナー

2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | 第3会場 (ウイंकあいち 5F 小ホール1)

ランチョンセミナー7 補綴の力で診る口腔機能低下症 ―口腔機能検査の補綴治療への活かし方―

協賛：株式会社ジーシー

[LS7] 補綴の力で診る口腔機能低下症 ―口腔機能検査の補綴治療への活かし方―

*上田 貴之¹ (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)

キーワード：口腔機能検査、口腔機能管理、治療計画

令和8年度診療報酬改定では、口腔機能検査に関する施設基準が廃止され、すべての歯科医療機関で各種検査および口腔機能管理料の算定、さらに歯科衛生士による口腔機能に関する実地指導を、加算とは独立して算定できるようになった。これは、口腔機能検査が“すべての歯科医院で一般的に行うことができる検査”として位置づけられたことを示すものといえるだろう。咀嚼機能や発音機能などを日常的に治療対象とする補綴歯科医にとって、口腔機能検査はもはや必須の評価法といえる。これは、保険診療に限らず、自費診療の補綴治療であっても同様である。

実際に、日本補綴歯科学会誌に掲載された過去3年間の専門医症例報告をみると、ほとんどの症例で客観的な機能検査が実施されており、最も多かったのは咀嚼機能検査、次いで咬合力検査であった。さらに、多くの症例で複数の客観的検査と主観的評価が術前・術後に行われていた。このように補綴治療の術前検査として、また、術後の機能回復の程度の評価として口腔機能検査が広く用いられてる。

本講演では、症例を通して補綴歯科医が口腔機能の評価する意義を再考するとともに、診療報酬上の検査項目を補綴学的観点からどのように解釈し、臨床へ応用できるかを紹介する。さらに、補綴の力と口腔機能管理が切り拓く歯科医療の未来について考えたい。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | Ⅲ 第4会場 (ウインクあいち 5F 小ホール2)

ランチョンセミナー8 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

座長：澤瀬 隆 (長崎大)

協賛：京セラメディカル株式会社

[LS8] 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

*黒嶋 伸一郎¹ (1. 北海道大学大学院歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯・インプラント再生補綴学教室)

ランチョンセミナー

2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | 第4会場 (ウインクあいち 5F 小ホール2)

ランチョンセミナー8 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

座長：澤瀬 隆 (長崎大)

協賛：京セラメディカル株式会社

[LS8] 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

*黒嶋 伸一郎¹ (1. 北海道大学大学院歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯・インプラント再生補綴学教室)

キーワード：配向型インプラント、骨質、広範囲顎骨支持型装置

2017年、歯工産学連携により開発・上市されたFINESIA®インプラントは配向型スレッドデザインであり、基礎的研究を基盤として、荷重環境下で骨質の向上が期待されるデンタルインプラントである。2023年にはミクロ～ナノ構造を有するブラスト&酸エッチング処理で表面性状が改質された結果、極めて良好な骨結合を達成することが可能となった。骨質には種々の考え方があるものの、世界的な基準としては、骨微細構造、骨代謝回転、石灰化、ならびに損傷の蓄積として定義されており、以前のような骨密度依存概念ではなく、骨芽細胞、破骨細胞、骨細胞などの骨関連細胞が主体となって構成されている。

一方、良性腫瘍、顎骨壊死、ならびに悪性腫瘍などで広範囲に顎骨が切除され、腭骨を中心として再建された部位では、外科的治療、放射線治療、ならびに化学療法などで骨質が大きく劣化していること、また、大きな顎骨欠損に起因して患者の生活の質（QOL）や口腔関連QOLが著しく低下していることから、保険収載されている歯科インプラント治療を応用した広範囲顎骨支持型装置は、さまざまなことを考慮した上で行うべき補綴歯科治療術式であると思われる。

本講演では、配向型インプラントの特徴や優位性に関して、基礎的研究を基盤とした最新の科学的情報をお伝えするとともに、ティッシュレベルインプラントの特徴に加え、骨質が劣化していると考えられる症例への歯科インプラント治療に関する情報をご提供する。本セミナーが先生方にとって有益な情報取得になれば幸いである。